

## 自治協議会の実情について（抜粋）

## （4）「人・財源」のうち「人」について

	特筆
他団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の課題解決に対して事業を進めるグループが発足している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体によって違うが、活動が活発である。サークル、グループは自分からやりたい人の集まりであり、活動が活発である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員のなり手は少ないが、支援者、協力委員として手伝ってくれる人もある（役員を経験した人たち）。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者グループの「かどのASC」は自主的に活動するグループであり、補助金等を受けると制約があるとの意向から独自に活動している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの様な事業でも、自らがやろうと言う意気込みがあれば出来る体制であるが、経費の伴う事業であれば、協議が必要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒井自治協議会の最大イベントである黒井城まつりは、実行委員会を立ち上げマンパワーを集積し催行している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年、アンケート調査を行い自治協の事業に参画したいが、方法が分からないとの回答が60名（回答者の5%）から寄せられ是非ともこの方たちを自治協活動に引き込みたいと考えた方面に協力をお願いしています。事業が楽しく目に見える成果が示せたらその様な方ももっと増えると考えています。ソフト面（アイデア）の努力を痛感しております。財源についても行政は自主性主体的で有る事を求めておられ、今は経営とは程遠い状況ですが少しずつ収入確保に向けて努力しております。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較的幅広く人材を集めているが、やりたい人を確実に登用できているかは更に調査を必要とする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業を実施する際には、率先して手伝ってくれる人はなかなかいないのが現状であるので、実行委員会制にし各自治会より何名かを選出してもらい、事業実施している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“かみくげ宿”の活動は、率先して事業を進めてくれている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～2年前より、新しい人材に参加してもらい、新しく発想で新しい活動もできており、今後も活性化が期待できる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多種多様な職種経験の人材がおり、事業の実施に当たって大きな力となっている。</li> </ul>
役員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業は責任感の強い役員がリードすることにより進められている。</li> </ul>
部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業は単位自治会から選出してもらった部会員で行う体制である。</li> </ul>

自治協議会の実情について（抜粋）

(4) 「人・財源」のうち「人」について

	課題
役員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役員(理事)選考方法の変更で、任期の長期化と理事数の改善はできたが、全体的に活動意欲は低下している。</li> <li>・新たな財源を求める前に、事業の整理と事業を担う人材確保が必要。</li> <li>・高齢化とともに運営を手助けする人は年々少なくなる。</li> <li>・地域から宛職で運営に携わっている人の意識が低い。</li> <li>・自治会や自治協議会の役員は自分からやりたい人以外はいません、現状です。</li> <li>・人材育成が急務である。</li> <li>・自治会長会からの選出役員の任期は1年、意欲が沸いてきたころに任期で交替するというのが現状である。輪番制について、見直しの必要がある。</li> <li>・行政主導でできた組織であり、支援の方策が必要であり、地区としても地域づくりに向けて、行政との協力体制を協働で検討する必要がある。</li> <li>・事務局役員の確保について、市の交付金要綱の件費では年金受給年齢引き上げ等の関係や扶養家族限度額の問題等で適格者の確保が難しい。件費の支援を市に要望したい。</li> <li>・年金支給開始年齢が上がり、現在では70歳位まで働く人が殆どになっている。70歳前後で年金を貰いながらでしか、現行活動推進員の手当では難しいと思える。若い世代が活動推進員になって地域活性化を図るには、2倍3倍の手当が必要となるが財源が無い。協議会の会長手当も微々たるもので、名誉職としてやってもらっているために、後継者が中々見つからない。</li> <li>・役員のなり手が無い。原則ボランティアであり、人材の確保が難しい。</li> <li>・会長、副会長のなり手が無い。</li> <li>・定年退職年齢の延長、再任用(雇用)等により地域貢献や地域に関わる者がなくなっている。自治会長であっても現役者が増加している。こうしたことにより支援はできても参画ができないことと女性の参画が、今後の地域づくりの課題となっている。</li> <li>・再雇用で働く人が増え、役員の高齢化や平日昼間の事業がしにくい。</li> <li>・各自治会長が自治振興会の役員も兼ねている。</li> <li>・交付金等の事務が難しく、煩雑であることなどが原因で、仕事量が多くなり役員になることに消極的な人がほとんどである。</li> <li>・振興会の理事(役員)の選出は、自治会の会長と副会長が兼務(あて職)しているのが現状であり、理事としての責務感が薄い、また、職を持った理事(役員)が多くなっている。</li> <li>・推薦委員の業務と拠点施設の維持管理業務を同一人が行っており、煩雑と繁忙が生じている。</li> <li>・会長並びに推進員に対する報酬は、自治会長の報酬と比較して相当の少額である。</li> </ul>
他団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画面と運営面の役割分担と、運営時の人づくりの育成や、発掘を組織団体に調整する必要がある。</li> <li>・かどのふれあい交流広場、ブランド工房、かどの元気広場など施設・設備はあるが、それらを生かして真剣にやってみようと言う者が見つからない。</li> <li>・若者、バカ者、よそ者をもっとりこまない地域づくりが衰退して行く。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局のなり手がいない。今、次期の事務局を探してもらっているが、来年の3月まで待ってほしいといわれている。</li> <li>・推進員の抜本的な処遇改善が急がれる。</li> <li>・コミュニティ活動推進員は、今後、継続的に候補者があるかどうかは未知数である。</li> <li>・将来を見越した地域づくりを目指しているが、その中心となって職務を担う推進員の人材がいない。計画的な人材登用が図れるように、市の早急な対応が必要である。</li> <li>・役員等(特に推進員)のなり手がいない。</li> <li>・現在は事務局を2人体制で行っているが、将来維持できるは分からない。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は自治協の事業を支えてくれる活動家の発掘に努力している。</li> <li>・少子高齢化という課題を抱える単位自治会からの部会員の選出の困難となりつつある。(選出された部会員も多様な日常生活の中、参加・参画が困難である状況である。)</li> <li>・なり手はあるが見つからないだけと考えており参画したい方を見つけ出す努力を続けます。仕事の割には報酬が安いことも1因かもしれませんが、行政にかかわる仕事とは申せサービス業の面も多々ありこの点を理解していただきボランティア活動をお願いしています。飲食というほどでなくても現在は出費を認められておりませんが、ボランティアの方々には年1度の慰労さえ認められないかたくなさは、主体性、自主性を求められるのと何か矛盾を感じます。</li> <li>・男女共、ボランティアをする人がない。ボランティアをしようという熱意を持つ人がいない。無関心が多い。</li> <li>・楽しく活動しようとしても難しく考えてしまう人やネガティブにとらえてしまう人もいて、地域づくりという目標を楽しいものにする必要がある。</li> <li>・やりたい人の足を引っ張る人、やりたくない人にやらせようとする人、まったく無関心な人がいます。→やりたい人がやり、やりたい人はやりたくない人に強要しない、やりたくない人はやりたい人の足を引っ張らないというのがボランティア活動の基本。こうありたいと思っていますが、難しい。</li> <li>・率先して事業を進める人材がいない。</li> <li>・若人(50代未満の男女)のリーダー的人材が徐々に育ちつつあるが、役員、委員構成比率では極端に低い。</li> <li>・元気な高齢者をコミュニティ活動に取り込む意識改革の構築が必要。</li> <li>・豊富な知識や技術を持った人材に対して、活躍の伝承の場を与えられていない。</li> </ul>